

～人と地球の健康を考える～ プラネタリーヘルスケア・フォーラム

Planetary
Health care
Forum

日時：2022年11月24日（木） 1:00～4:30pm

ご挨拶「プラネタリーヘルスケア・フォーラム開催に寄せて」

本日は、日本ヘルスケア協会の野菜で健康・お米で健康・土壌で健康推進部会の3つの部会が合同でシンポジウムを企画しましたところ、多数の方々の申込を頂き、誠にありがとうございます。言うまでもなく人間の健康は食べ物によって維持されますが、健全な野菜・果物・お米は、実は健康な土壌によって作られます。

当協会は、「ヘルスケア」を通して国民の健康寿命を維持・増進することを活動目的としていますが、「食」が中心となる予防活動の推進によって、高齢社会における社会保障費を節減し、世界に冠たるわが国の医療制度の存続を図りたいものです。このため、当協会は今後とも関係行政、関係団体、関係企業の方々と手を携えて、健康な食べ物づくり・土壌づくりのあり方を探り、ひいては人々の健康寿命の延伸に貢献していくことができたらと思っています。

公益財団法人日本ヘルスケア協会会長 今西信幸



■土壌で健康推進部会長 上杉登

土壌で健康推進部会は、「人々、動植物の健康は健康な土壌から」を理念に掲げ、野菜・お米で健康推進部会との共創による人々の健康寿命延伸を目指しております。

今後、食料と地球環境保全を両立する持続可能な農業の実現、健康基軸による食と農のイノベーション創出を目指し、土壌中の微生物、腐植物質、ミネラル等のバイオスティミュラント領域における最新の研究成果やエビデンスの発掘・発信を進めてまいります。

本日のフォーラムをきっかけに弊部会の活動にご共感いただけると幸いです。今後のお力添えのほど、宜しくお願い申し上げます。



■野菜で健康推進部会長 丹羽真清

日本ヘルスケア協会の中で「野菜で健康推進部会」を2016年10月に設立しました。平均寿命は毎年延びますが、健康寿命との差が9～12年と縮まらないことが問題です。生活習慣病を予防し健康で長生きするために、野菜関連ビジネスで日本を健康にしたいと活動しています。

活動目的は「生産される野菜の質的向上と、野菜摂取量の増加」です。

「野菜は7色で食べる」のムック本を発刊し、野菜摂取の意義とエビデンスの波及をしてみました。これからは、「お米で健康推進部会」「土壌で健康推進部会」と共にさらなる活動をしていく所存です。



■お米で健康推進部会長 柏原ゆきよ

日本人の主食として欠かせないお米の消費量は1962年をピークに一貫して減少傾向にありましたが、さらに消費減退が加速している危機的な状況です。その背景にあるのは「健康のためにお米を控えるべき」という風潮であり、あらゆる世代の健康問題に悪影響を与えていると考えております。本部会では、お米の健康価値を明らかにすると共に、食の持続可能性という観点においても米を主体とする食生活「ごはん食」の価値を再定義します。

お米の健康的な食べ方の普及と米食を実践しやすい食環境を創出することを通じ、日本人の健康寿命の延伸に貢献を目指して参ります。



第1部：食と農から考える、人と地球の健康 1:00 ~1:40 PM

オープニング：公益財団 日本ヘルスケア協会 代表理事・会長 今西 信幸

講演①：日本ヘルスケア協会 野菜で健康推進部会 部会長 丹羽 真清

講演②：日本ヘルスケア協会 お米で健康推進部会 部会長 柏原 ゆきよ

講演③：日本ヘルスケア協会 土壌で健康推進部会 部会長 上杉 登

第2部：土壌とヘルスケア ～微生物がつなぐ食と農の未来～

●基調講演：「デジタルと微生物利用による新しい農業」 1:45 ~3:00 PM

講師：理化学研究所バイオリソース研究センター チームリーダー 市橋 泰範氏

国連のSDGsにおいて掲げられる「食料生産と地球環境保全の両立による持続可能な農業の実現」は人類が早急に達成すべき課題です。

理化学研究所バイオリソース研究センターの植物-微生物共生研究開発チームは、サイバー空間上で農業生態系をシミュレーションするシステム「農業デジタルツイン」の開発、農業をエンジニアリングするソリューションである「共生体リソース（植物と共生する微生物のバイオリソース）」の開発を行うことにより、共生現象の実態解明と産業利用につながる成果をめざしています。

本講演ではチームでの研究の取り組みを紹介しながら、農業イノベーションに貢献しうるデジタル技術や微生物利用について議論します。

市橋 泰範氏 経歴

1982年生まれ
2010年 東京大学大学院理学系研究科 理学博士取得
2010年-2014年 カリフォルニア大学デービス校 研究員
2013年-2014年 日本学術振興会 特別研究員PD
2014年-2017年 理化学研究所環境資源科学研究センター 基礎科学特別研究員
2015年-2019年 科学技術振興機構 さきがけ研究員
2018年-現在 理化学研究所バイオリソース研究センター チームリーダー



市橋 泰範氏

●休憩：3:00 ~ 3:15

●パネルディスカッション：「土壌とヘルスケア」 3:15~4:25 PM

パネリスト：理化学研究所バイオリソース研究センター チームリーダー 市橋 泰範氏

(国) 森林研究・整備機構森林総合研究所 主任研究員 藤井 一至氏

国立研究開発法人 産業技術総合研究所 菅野 学氏

モデレーター：(株) 生科研 常務取締役、土壌で健康推進部会 事務局 中嶋浩平



藤井 一至氏

藤井 一至氏 経歴

土の研究者
(国) 森林研究・整備機構森林総合研究所 主任研究員
1981年富山県生まれ
京都大学農学研究科博士課程修了 博士(農学)
カナダ極北の永久凍土からインドネシアの熱帯雨林までスコップ片手に世界、日本の各地を飛び回る。
受賞歴
・第1回日本生態学会奨励賞
・第33回日本土壌肥料学会奨励賞
・第15回日本農学進歩賞受賞、第39回とやま賞
著書 『土 地球最後のナゾ 100億人を養う土壌を求めて』
(第7回河合隼雄学芸賞受賞)
『大地の五億年せめぎあう土と生き物たち』など。



菅野 学氏

菅野 学氏 経歴

国立研究開発法人 産業技術総合研究所
生物プロセス研究部門
生物資源情報基盤研究グループ 主任研究員
1982年生まれ
2007年 東北大学大学院 農学研究科卒(修士)
2015年 筑波大学大学院 農学博士取得
研究領域：環境微生物学
新規な生物機能を有する環境中の微生物の開拓と機能解明に一貫して取り組む。“微生物を活用した新しい植物バイオ産業”のモデルシステムの創出をめざす。

●終了 4:30PM